

3 実践の考察

考察の視点

本研究では、学習状況調査の結果から見える課題の解決を目的として、児童に身に付けさせる力として次の3つに整理し、研究委員の在籍校での児童の実態を把握し、授業改善の手立てを講じた授業実践に取り組んできました。

社会科における思考力・判断力

- ・もっている知識や調べて分かったことを根拠として社会的事象の特色や相互の関連、意味を多面的、総合的に考える力

社会科における表現力

- ・習得した知識を活用して社会的事象の特色や相互の関連、意味について分かったことや考えたことを説明したり、論述したりする力

社会科における知識を身に付け、理解する力

- ・思考や表現などの過程を通して、基礎的な知識を身に付けながら社会的事象の特色や相互の関連、意味を理解する力

そこで、課題解決に向けて児童に身に付けさせたい力に沿って、次の3点を考察の視点に授業実践を考察します。

- ア もっている知識や調べて分かったことを根拠として社会的事象の意味を多面的、総合的に考える力が付いてきているか。
- イ 習得した知識を活用して社会的事象の意味について分かったことや考えたことを説明したり、論述したりする力が付いてきているか。
- ウ 思考や表現などの過程を通して、基礎的な知識を身に付けながら社会的事象の意味を理解する力が付いてきているか。

ア もっている知識や調べて分かったことを根拠として社会的事象の意味を多面的、総合的に考える力が付いてきているか。

社会的事象の意味を多面的、総合的に考える力が付いてきているかについては、【実践事例5】（第6学年「明治の国づくりを進めた人々」）と【実践事例4】（第6学年「町人の文化と新しい学問」）のワークシートの記述を基に考察します。

まず、【実践事例5】の単元の目標は、学習指導要領の内容（1）のキを受けて、調べたことから「欧米の文化を取り入れつつ欧米に負けないように近代化を進めてきたこと」を考えて分かる社会の内容に設定していました。そこで、第4時の学習問題Ⅰ「江戸時代から明治時代には、どんなことが原因でどのように変化したのだろう」のまとめを記述した児童の記述を基に、社会的事象の意味を多面的、総合的に考えられたかを考察します。


多面的に考えられたかを判断する目安として、政治や技術など複数の「調べた視点」から記述できていること。総合的に考えられたかを判断する目安として、「欧米の文化を取り入れ近代化したこと」や「国民の意見を受け入れようとしたこと」が記述できていることとしました。

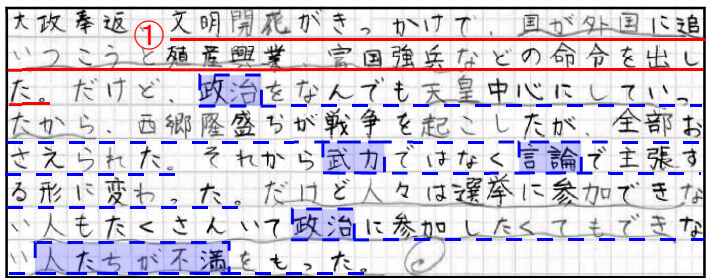
この目安を基に、児童の記述を見ると、表1のようになりました。次頁資料1のように多面的、総合的に考えることができた児童は、 と で示す範囲で全体の64.6%になりました。また、総合的に考えられたかを判断する目安を、学習問題Ⅱへつ


表1 児童のワークシートの記述の分析結果 n=31

記述に含まれる視点の数	4			6.5%
	3			19.3%
	2		6.5%	32.3%
	1	3.2%	16.1%	12.9%
	0		3.2%	
	個 個	0	1 (①のみ)	2 (①②両方)

記述に含まれる考えて分かる社会の内容の数
(次の2つのうち、いくつ含まれるか)
①欧米の文化を取り入れ近代化したこと
②国民の意見を受け入れようとしたこと

ながら「国民の意見を受け入れようとしたこと」が必ず記述できているとすると、で示す範囲で58.1%にとどまりました。しかし、授業前に実施した、県調査を基に作成した実態調査と比較すると、同様に考える設問「費用や生産の視点を基に、食料輸入に依存することの問題点について自分の考えを論述する問題」の正答の反応率が、34.4ポイントであったことから、23.7ポイントの伸びが見られ、多面的、総合的に考える力が付いてきていることがうかがえます。



※本サイトには、ワークシートを掲載していますが、実践では、ノートを使用しました。
 ①…欧米の文化を取り入れ近代化したことに関する記述、…調べた視点に関する記述と判断した箇所
 ②…及び破線は研究委員会による

資料1 【実践事例5】A児の4時目のまとめの記述

また、【実践事例4】は、学習指導要領の内容(1)の力を受けて、調べたことから「社会が安定するにつれて、町人文化や、蘭学や国学といった新しい学問が生まれたこと、それらに関わる人物の働きが理解できるようにする」ことを考えて分かる社会の内容に設定していました。そこで、学習問題Ⅰ「江戸時代には、どんな文化や学問が生まれ、誰が活躍したのだろうか」をまとめる第5時と学習問題Ⅱ「江戸時代を代表する文化や学問を考えよう」について討論を行った第6時の振り返りのワークシートの記述を基に考察します。


表2 児童のワークシートの記述の分析結果 n=34

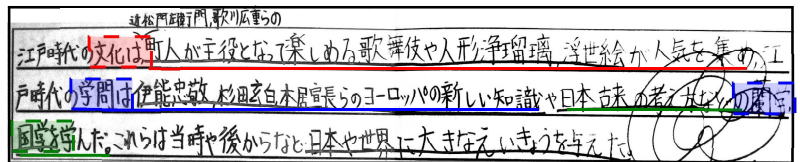
特徴についての文化、蘭学、国学の記述数(第5時)	3	14.7%	50.0%
	2		14.7%
	1		5.9%
	0		2.9%
	個	×	○




学習問題Ⅱについての振り返りの記述に江戸時代の文化や学問の特徴について、比較したことを自分の言葉で書くことができたか。(第6時)
 (○…できた、×…できていない)

総合的に考える力については、第5時のまとめの記述の中に、江戸時代の文化、蘭学、国学のそれぞれ特徴についての記述がいくつ含まれているかで判断しました。また、多面的に考える力については、第6時の振り返りの記述の中に、江戸時代の文化や学問の特徴について3つの分野を比較したことを自分の言葉で書くことができたかどうかで判断しました。

以上の判断する目安を基に、児童のワークシートの記述を分析してみると、表2のようになりました。

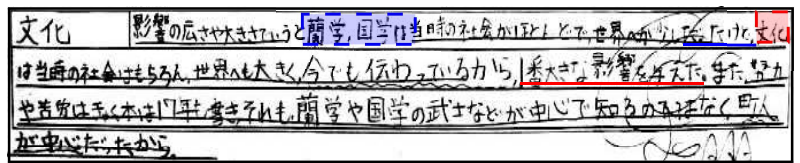
第5時の学習問題「江戸時代には、どんな文化や学問が生まれ、誰が活躍したのだろうか。」のまとめにおいて、授業で取り上げた3つの分野の特徴について、資料2のように全て記述できた児童は、で示す範囲で全体の64.7%でした。そのうち、第6時において、資料3のように比較したことを自分の言葉で記述できた児童は50.0%にとどまりました。しかし、





は文化、は蘭学、は国学の特徴を記述したと判断した箇所 下線び破線は研究委員会による。

資料2 【実践事例4】B児の5時目のワークシートの記述

授業前に実施した県調査を基に作成した実態調査と比較すると、同様に考える設問「奈良時代や平安時代の貴族や庶民の食事を比較し、資料を基に貴族の食事の特徴を説明する問題」の正答の反応率が12.1ポイントであったことから、37.9ポイントの伸びが見られ、多面的、総合的に考える力が付いてきていることがうかがえます。



は文化、は蘭学や国学について他と比較した記述と判断した箇所 下線び破線は研究委員会による。

資料3 【実践事例4】B児の6時目のワークシートの記述

これらのことから、もっている知識や調べてわかったことを根拠として、社会的事象の意味を多面的、総合的に考える力は、1単元での伸びは小さいですが、本研究委員会が提案する授業改善策を継続的に取り入れていくことで高まることが期待できると考えます。

イ 習得した知識を活用して社会的事象の意味について分かったことや考えたことを説明したり、論述したりする力が付いてきているか。

習得した知識を活用して社会的事象の意味について分かったことや考えたことを説明したり、論述したりする力が付いてきているかについては、【実践事例2】（第3学年「はたらく人とわたしたちのくらしー店ではたらく人ー」）と同内容の単元である【実践事例1】、さらに、【実践事例3】（第5学年「これからの食料生産とわたしたち」）のワークシートを基に考察します。

【実践事例2】では、学習問題Ⅱ「調べたスーパーマーケットにもっとお客さんが来るためには、『安さ』と『新鮮さ』のどちらを先に取り組んだ方がいいか考えよう」について討論会をしました。第14時のワークシートには、討論会後の自分の考えを記述させました。

習得した知識を活用していたかどうかは、その記述の中に、学習したことが含まれていたかどうかで判断しました。また社会的事象の意味について論述できたかどうかについては、3年生であったことから、社会的事象の意味を社会的事象の特色や相互の関連、つまり、販売者の工夫と消費者の願いとの関連と捉え、これらが根拠を示して論述できたかで判断しました。

以上の判断する目安を基に、児童のワークシートの記述を分析してみると、表3のようになりました。その結果、資料4のように第14時に習得した知識を活用して売者の工夫と消費者の願いとの関連と捉え、これらが根拠を示して論述できた児童は88.9%でした。

また、同内容の単元である【実践事例1】において、【実践事例2】と同じ目安を基に第7時の学習問題Ⅰのまとめの記述を分析したところ、81.5%の児童が関連付けた論述ができていました。

さらに、【実践事例3】では、学習問題Ⅱ「(食料の)国内生産を高めるためには、どうすればいいのだろう」について、第8時にJAへ提案文を記述させました。これからの食料生産について、習得した知識を活用し、様々な食料生産が国民の食生活を支えていることを基に記述できているかどうかを分析してみると、資料5のように自分の考えを記述できた児童は95.2%でした。

表3 児童の第14時のワークシートの記述の分析結果 n=27

学習したことが含まれていたか (○:含む ×:含まない)	○	7.4%	88.9%
	×	0.0%	3.7%
		×	○

販売者の工夫と消費者の願いとの関連と捉え、これらが根拠を示して論述できたか。
(○…できた、×…できていない)

スーパーマーケットは、(安い)を先に取組めばいいと思います。わけは、
 せんせんの方は農やくを心酉己しているけど
 の商品はそんなにおいしくないとかんじ
 ない。外国産では 調べた資料の番号と資料名
 きかいで大雨のように作っているから、安いと思
 うけれど、しんせんもいいと思う。なびかという
 さんの意見と 調べた資料の番号と資料名
 元とかで作った人の名前を書くよ、よりだれ
 かが作った人の名前とかもしんせんのよさだど
 思う。
 スーパーマーケット名、資料名、友達の名前は研究委員会による。

資料4 【実践事例2】C児の14時目の記述

<p>「国内生産を高めるための取り組みについて」</p> <p>わたしが1番有効だと思う解決策は、<u>地元の作物を使っていく(地産地消)です。それか一番有効だと思</u> <u>たわけは、農業輸入を増やしても、ほとん</u> <u>どの人が同じ作物しか作ってないか</u> <u>たら、同じ作物も自給率が上がらない</u> <u>から地産地消を高めたら、外国産より</u> <u>安全、安くして食べれるからです。</u> <u>全部機械でしてくれると、機械では</u> <u>読みとれない作物の病気は輸送と</u> <u>売たりしたら、食べた人が病気になたら</u> <u>販売者の人たちが売っている作物も</u> <u>売れなくなて、消費者の人たちも、安心</u> <u>して食べれないし、生産者の人たちも</u> <u>作物が売れなたら、仕事になら</u> <u>ないからです。だから、地元の作物を</u> <u>使っていく地産地消が、一番有効だど</u> <u>思います。</u></p>	<p>「国内生産を高めるための取り組みについて」</p> <p>わたしが1番有効と思う解決策は、<u>機械化</u>です。 <u>理由は、機械化だと、察にははやくできるからで</u> <u>それにお金は、地いさでだし合えばいいと思</u> <u>いました。もしも90代くらいでも2人くらいは、わか</u> <u>い40〜80代くらいはいいと思うので、いい</u> <u>と思いました。教科書にも米のことでヘリコプ</u> <u>いおかりきなどいろいろな機械化で察にはは</u> <u>くできるし、本当にお金を地いさで合している</u> <u>ところか、いるので、人の数が少なくても機械</u> <u>があれば、それしようと思しました。</u> <u>最後にもうあります、かがいものかわおきやね</u> <u>きのかわおききなど、きかいが、あてい機械を</u> <u>使、てないで、ききうたたら、何時間もかかるし</u> <u>こしもいなくなると思うから、機械化が一番</u> <u>いい方法だと思しました。</u> <u>できるだけ、たくさんの人に、地もどおあは</u> <u>しい野菜を食べてもらいたいと思</u> <u>ました。</u></p>
---	---

資料5 【実践事例3】D児、E児の8時目の提案文の記述

これらの結果から、この単元を通して、児童は社会的事象の意味について、分かったことや考えたことを根拠を明確にして論述できてきたと考えます。

ウ 思考や表現などの過程を通して、基礎的な知識を身に付けながら社会的事象の意味を理解する力が付いてきているか。

思考や表現などの過程を通して、基礎的な知識を身に付けながら社会的事象の意味を理解する力が付いてきているかについては、【実践事例6】（第6学年「新しい日本、平和な日本へ」）の目標に準拠した単元の評価テストの結果を基に考察します。

【実践事例6】では、基礎的な知識を身に付けながら、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが考えて分かることを目標にしています。

授業改善の手立てを講じていない前単元後と授業改善の手立てを講じた本単元後に、以下のように単元の評価テストを行いました。その結果が図1です。

- ・評価の観点：社会的事象についての知識・理解
- ・問題数(総点)：15問(150点満点)
- ・到達基準の設定：十分達成…95.0、おおむね達成…70.0
- ・評価：
 - ・十分達成の到達基準以上…A
 - ・おおむね達成の到達基準以上、十分達成の到達基準未満…B
 - ・おおむね達成の到達基準未満…C

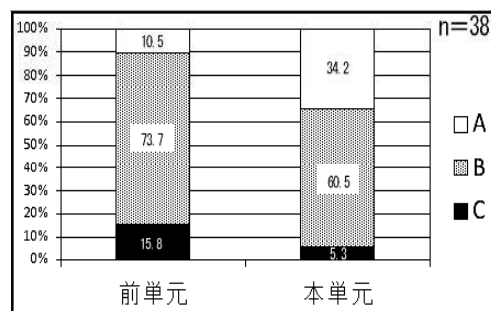


図1 単元の評価テストの結果比較

児童の知識・理解について、図1を見ると、Cと判断される児童が前単元の15.8ポイントから5.3ポイントに、10.5ポイント減少し、Aと判断される児童が前単元の10.5ポイントから34.2ポイントに23.7ポイント増加しています。これらのことから、内容に違いはありますが、基礎的な知識を効果的に身に付けることができるようになっていることがうかがえます。

以上のことから、本研究委員会が提案する授業改善策は、「ア もっている知識や調べて分かったことを根拠として社会的事象の意味を多面的、総合的に考える力」「イ 習得した知識を活用して社会的事象の意味について分かったことや考えたことを説明したり、論述したりする力」「ウ 思考や表現などの過程を通して、基礎的な知識を身に付けながら社会的事象の意味を理解する力」を伸長させる効果が見られたと考えます。したがって、学習状況調査から見える課題を解決する授業改善策として有効に働いていると考えます。